

2024 年度教育学科 教育課程編成・実施の方針に照らした

学修への取組の適切性に関する検証

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学びの姿勢ふり返り（学科／研究科専攻の教育課程編成・実施の方針）」のデータを活用して検証を行った。当学科の教育課程編成・実施の方針は以下の通りである（<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/fe.html>）

「問題解決型学習（PBL）や協同学習を積極的に活用し学士力向上をめざしていく科目を配置するのはもちろんのこと、保育士や教員としての情熱や責任感を育み、乳幼児・児童・生徒を理解し一人ひとりの気持ちによりそった対応ができるようになるうえで必要な、保育系・教育系・特別支援教育系の講義・演習・実習などを中心に配置しています。さらに、東北福祉大学のこれまでの実績をいかして、福祉系科目や心理学系科目等も幅広く学び、乳幼児・児童・生徒をさまざまな面から支援する方法を総合的に理解できるカリキュラムになっています。」

「学びの姿勢(教育課程編成・実施の方針)」の結果

1. 各学年の回答者数は、1年生が177名(71%)、2年生が76名(30%)、3年生が95名(38%)、4年生が78名(31%)であった。
2. 全学年の平均値を見ると、「学士力向上への取り組み」および「段階的に学修を進めるための取り組み」は4.7点、「履修相談や学習相談」は4.6点と、いずれも4点（“ややそう思う”）から5点（“そう思う”）の間であり、概ね良好な状態にあるものと考えられる。
3. 学年間の特徴は、3項目すべてで4年生が最高値を示し、次いで1年生と3年生、2年生の得点が最も低かった。4年生が最高値を示すのは、昨年および一昨年と同様であり、4年間の学びの結果として高得点を示した可能性が考えられる。全学年・全項目を通した最低点は、2年生の「学士力向上への取り組み」および「履修相談や学習相談」（4.3点）であり、コース（小特、小幼、幼保）が1年終了時に決定し、卒後の進路決定までの時間的余裕があるためとも考えられるが、4年生の卒業前アンケートの結果では、早期の意思決定と望ましい就職との関連性が見出されており、この時期の適切な指導が望まれる。

